



インスピレーションになろう

帯広西ロータリークラブ 第2251回例会 2018.11.22 会報



■RI第2500地区テーマ■

行動するロータリー、つながるロータリー
～ロータリーの未来を考えよう～



■クラブ・テーマ■

常識を疑い、可能性に挑戦する

ゲスト紹介

ハイルハンバグ
子ども応援奨学金の会
小林 志歩 様

佐藤 聡 会長



会長報告

佐藤 聡 会長

皆さんこんにちは。今週の月曜日から帯広市役所の1階ロビーにおいて国際ロータリーの財団事業の柱でもあります「ポリオキャンペーン」が開催されました。パネル展の他に動画映像もあり署名活動も実施しておりますので、是非お立ち寄り頂きたいと思えます。ポリオとは、ポリオウイルスの中枢神経感染により生ずる急性弛緩性麻痺を症状とする疾患であり、かつては小児に多発したところから小児麻痺ともよばれています。感染経路は、人から人へ感染し、最も多いのは汚染水を通じた感染です。治療法はありませんが、安全なワクチンで予防が可能です。ロータリーとそのパートナー団体は、これまで世界中25億人以上の子どもにワクチンを投与する活動を行ってきました。1988年以来、発症数は99.9%減少してまいりましたが世界からポリオを撲滅しない限り、今後10年以内に、世界での年間発症数は20万件に上ると予想されています。ポリオの常在国はわずか3カ国ですが、ポリオの発症がどこかで起きている限り、感染の危険は世界中の子どもに及ぶこととなります。今後ともポリオ撲滅にご理解とご協力をお願い申し上げます。

話は変わりますが、20日に帯広信用金庫と中小企業家同友会が共催で金融セミナーを開催いたしました。話の内容をかいつまんで言うと、日本における雇用の90%の受け皿は中小企業であること。金融機関は、その中小企業と共に支え合いながら発展するパートナーでなければならない。1999年に公表された金融検査マニュアルは来年の夏までに廃止される。結論として、金融機関が中小企業に対し融資を行う際に、会社の資産や社長の個人資産を担保に取るような金融機関は見捨てられる。その代わりに、会社の社長は事業の将来性を含め金融について勉強するべきだ。という衝撃的な内容でした。この内容は、金融庁のサイトで公式に発信されていますので一度ご覧になることをお勧めいたします。

ということで、今週は「知覚動考」という言葉を紹介させていただきます。

「自分の仕事を 天職と信じ
その仕事の可能性を とことん追求する
そういう姿勢が 成長をもたらす
同じ日は一日もない
日々小さな努力を重ねて 進化しなければならない
何事も積極的に捉えて 情熱を持って挑戦していく」
以上、会長挨拶とさせていただきます。

会務報告

河西智子 副幹事

- ①帯広北RC、11月23日（金）の例会は、祝日のため休会と致します。
- ②帯広西RC、夜間例会開催のご案内
日時 11月29日（木）午後6時30分
場所 北海道ホテル
- ③帯広西RC、年次総会開催のご案内
日時 12月6日（木）午後0時30分（例会時）
場所 北海道ホテル
- ④帯広西RC、年末家族会開催のご案内
日時 12月13日（木）午後6時30分
場所 北海道ホテル
- ⑤各ロータリークラブ、年末家族会開催のご案内
 - ・帯広南ロータリークラブ
日時 12月2日（日）午後6時30分
場所 北海道ホテル
※尚、12月3日（月）の繰上げ例会と致します。
 - ・帯広東ロータリークラブ
日時 12月11日（火）午後6時30分
場所 ホテル日航ノースランド帯広
 - ・帯広ロータリークラブ
日時 12月12日（水）午後6時
場所 ホテル日航ノースランド帯広
 - ・帯広北ロータリークラブ
日時 12月13日（木）午後6時30分
場所 ホテル日航ノースランド帯広
※尚、12月14日（金）の繰上げ例会と致します。



会長 佐藤 聡 副会長 内海 仁司 会場監督理事 田中 耕吾 発行：広報委員会
幹事 小谷 典之 副会長 渡部 省一 プログラム委員会理事 谷脇 正人 委員長 菊池 俊博 (副)松田 貴史



例会日/木曜日 12時30分～13時30分 例会場/北海道ホテル 帯広市西7条南19丁目1 (TEL 21-0001)
創立/1972年2月24日 事務局/帯広経済センタービル4階 TEL 25-7347 (直通) FAX 28-6033

委員会報告

●親睦活動委員会

伊藤公康 親睦活動委員長

皆さんこんにちは、親睦活動委員会委員長伊藤です。



12月13日木曜日午後6時30分より年末家族会、サブタイトルが『常識を疑え!サブカルパーティー2018』と題致しまして家族会を企画しております。ご案内が少し遅くなってしまいました申し訳ございませんでした。締切が11月30日までとなっておりますので、是非奥様、ご家族の方をお誘いの上、たくさんの会員の皆様のご参加を心よりお待ちしております。どうぞ宜しくお願い致します。

●ニコニコ献金

藤本 剛 親睦活動副委員長

石原 英樹 直前会長

新ショールーム・工場オープンしました。週末の展示会で皆様お待ちしております。



太田 豊 会員

本日11月22日ジャスト誕生日です。57才になってしまいました。

伊藤 肇 国際奉仕委員長

本日担当例会です。宜しくお願い致します。

松原 宏樹 健康増進委員長

雪でかくれてしまいました、フィールド工事無事完成致しました。今後ともよろしくお願い致します。

松田 貴史 広報副委員長

先日、ソフトテニスの35才以上の大会で優勝しました。

藤本 剛 親睦活動副委員長

本日は私ごとで大変恐縮ではございますが私の妻が12月7日に十勝プラザレインボーホールにてコンサートを開催する運びになりました。夫としては当然ながら一経営者としてこのような活動に支援していきたいと思い一人でも多くのご支援ご協力をいただきたく告知させて頂きました。国内、海外などでの多大なる経験を生かし地元帯広でのコンサート開催に意気込んでおりますので当日の生の演奏を聴きにきていただきたいと思ひます。宜しくお願い致します。

ニコニコ
献金

11月22日

12,000円

累計

273,000円 (11月22日現在)

◆プログラム



「モンゴルの活動を振り返って」

ハイルハンバグ子ども応援奨学金の会 小林 志歩様

伊東 肇 国際奉仕委員長



《伊東委員長》

皆さんこんにちは。国際奉仕委員長の伊東でございます。本日はほぼ毎年本日ゲストでお越し頂きました小林さんに今までの支援の会の報告を中心にモンゴルについて語って頂くというのが通常の国際奉仕委員会のよくある例会だったと思うのですが、今年は予算のところから含め色々変えておりますので今日は小林さんには僕が一方的にお話するスライドに対して過去のものを含めてコメントを頂こうというスタイルをとっておりますのでゲストでご入場頂きましたが、今日はそちらに座って頂いて僕が作ったスライドが本当に合っているかということを含めて厳しくご指摘頂きたいと思ひます。本年度の予算のところから見て頂くと言ってもなかなか口頭で発表するぐらいなので皆様には伝わらないところがあるかと思ひますが、毎年西ロータリークラブの方からは小林さんが代表されていますハイルハンバグの支援の会の方に年度によって違うのですけれども5万円を支援金として支出をし続けてきました。それが10年経過致しまして新たな形を見出した方がいいのではないかとこの事で色々投げかけを頂きまして、それであれば10年間の活動を1度総括して何らかの形できちんとクラブに残した方がいいだろうと思ひまして、10年の歴史を振り返る資料を今回つくりました。そこで改めて僕が思った事は10年間5万円、10万円の時もありましたが支援してきた事はイメージとして5万円がノート500冊に代わるとか、鉛筆1万本に代るとか、支援したお金が物に代わって毎年贈られてきたという事実は委員長になってから勝手に思っておりまして。毎年どの物資をどれだけ贈ったのかを調べていけば結構面白いかなと実は思っていたわけですが。しかし実際は支援の仕方自体が違ひまして、そこから僕がこの資料のところは10年分の物資をこんなに贈ったのです、鉛筆を積み重

ねるとこれだけ高い山になるぐらいの凄く長いイメージを皆様にお伝えしようと思ひていたのですが、実は違ひておりまして支援の会の方を通じてお金をお渡し西ロータリークラブだけじゃないところからの支援を合わせまして支援の会の方でこの時期は現地の方と色々お話をし協議し足りない物はこうだ、こういう人達にこういう物をという事を責任もってお任せしている中の1つに我々のお金も入っていたという事でございます。西ロータリークラブの5万円がその中の例えば制服何着になるとかではなく、僕は5万円でこれを買いましたという物が西ロータリークラブの物だけ買ってお渡しし続けているものだというイメージを持っていたためですけども、会に対しての5万円の支援という事でそういう意味では責任のあるところとの10年間のお付き合いが結構なものになっている事がわかります。

まず活動年表というのを作ってみました。僕はここで本当は西ロータリークラブの5万円は鉛筆500本になりましたみたいな事を歴代書いていこうかなと思ひたら全然違う内容でしたのでまずは例会を行ったか行っていないか、支援の金額がおいくらだったのかという事をまず年表にしてみました。それとその後その当時の歴代の国際奉仕の担当の委員長の名前を書いてみました。実際、僕の理解ではクラブとして訪問しているのは2回訪問している認識ですが、当時は始める時の岡田会長を含め4名のメンバーが行った時と今年の茨木前国際奉仕担当委員長が行った2回だという事でその2回の訪問の写真を皆さんに見て頂きます。それと我々が支援をはじめてから毎年写真ではないのですがモンゴルの10年ぐらいの時間が経つとどんな感じで変遷していくのかという写真を皆さんに見て頂きます。我々が支援してきた歴史、支援の歴史はハイルハンバグの会の方で10年分まとめてもらいま

して毎年どれぐらいの支援が各方面から集まってきてそれが何人の子供達にいったのかというようなものを10年間まとめた表を作って頂いたのを掲載しております。最後に簡単なまとめという流れになっておりますが、こちらに書いてあるものは活動報告書と可能な限り年表の方から拾い上げたものになっておりまして日付が入っております。実はこれを調べ出して思った事は、活動報告書を見れば全部細かく全てが書いてあるのだろうと非常に安易な気持ちで事務局に行きまして活動報告書を全部出しその年の国際奉仕委員会のページの写真をカチャカチャと撮ったのですけれども、なかなか日付まで例会日を書いていなかったのが意外と10年間の1つの事を調べるのは大変なことだと改めて思いました。まずは2006-2007年度、これは岡田会長時代の年代だと思のですが、この時に少し国際奉仕に強く活動したいという会長方針があった事で広報などに記載がありまして通常よりも予算もかなり多く国際奉仕の方にとっていたというふうに書いてありました。実質訪問も含めるとモンゴルに関しては3回やっております、9月21日に担当例会でこの時の担当者が川田さんで当時の委員長でしたがモンゴル国際奉仕活動について例会をされています。その後モンゴルナイトという例会で岩手大学から畜大の方に留学で移ってきた学生を含め、その時に確か小林さんが初めて例会に参加されたのではないかと思います。6名の関係者を集めてやった例会がモンゴルナイトで、その後当時の岡田会長、尾藤副会長、越智幹事、川田国際奉仕委員長の4名で実際にモンゴルの方へ訪問しております。以降正式には2007-2008年度から西ロータリークラブとしての支援金をお支払いする活動を継続した形となります。開催例会が2009-2010年度の時にはモンゴル関係の担当例会は開催がなかったという事で、それ以外は大体小林さんに来て頂き担当例会をおこなってきたというのがまずこの年代の状況になります。以降も同様に5万円の支援をずっと継続しております。担当例会を1回程度開催され小林さんの方に来て頂いて現況とかをお話し頂いたという状況で支援を開始してからは5年間で1回総括するような例会も開催されており、2006-2017年度までこのような状況となっております。昨年の茨木委員長の時に担当例会を2月に開催されましてその後5月からモンゴルの方に会長と幹事、茨木さんと岡田さんで行かれているとの事で、石原当時会長とかの写真も後程出てきますのでご覧頂ければと思います。今年度もモンゴルに関しては担当例会を本日開催しております、今年度の予算としては金銭的に会にお渡しするというのは終了しているというのが今迄の状況になります。

ちょっとお話が脱線致しますが、僕は昨日まで長期で出張に行っております、外にいてちょっと資料を調べるのに実は凄く助かったのは会報がPDFになっているのが本当に助かりました。毎回僕も広報委員長をやって苦労が絶えない委員会だと思っていたのですが、ロータリークラブとして過去を振り返るのに実は会報を見るしかなかなかないので有って非常に助かりました。やっぱりこの日にこの時に行ったのかという事が分かり、会報に書いてあった事が歴史の全てなのかという事を改めて思いました。

モンゴルの訪問について少しお話を致します。第1回目の訪問で書いたのですが、訪問されたのが岡田会長、尾藤副会長、越智幹事、川田国際奉仕担当理事で行って頂いて当時の会報にモンゴルの支援の考え方というのが5つ、モンゴルのどういうところ支援すべきなんだという考え方が5つ載っております、1.長期にわたって奉仕できること 2.その成果が確認できること 3.確認するにあたってこちらの安全が確保できること 4.現時点での援助に関する重要性 5.帯広にその国に関連する人材が駐在していること この5つに適合するところがど

こかというのが1つの基準だったというふうに書かれていました。更に岡田会長がこれ以前にモンゴルに行かれた事があるという事でそのモンゴルについての知見、情報が非常にあったのでモンゴルに対して支援をしようという流れになったというふうに聞いております。訪問したのがウランバートルから入られて、行くのも凄く大変だったと事細かく書いてあったのですが、アルハンガイ県チョロート郡ハイルハン村/バグという、僕は最初1つの単語だと思っていたのですが、ハイルハンというバグという単位、いわゆる村とか郡とか1番小さい住居単位というふうに書かれていたけれど、それもすみません、委員長になって初めて調べて分かりましたが、ハイルハンという所に対しまして行ったという事でこちらの写真が現地の様子です。左に尾藤さん、右側に岡田さん、左側が現場で色々打合と打合せをしている岡田会長、右下の方に時期が1年違うはずなのですが実際の学校の校舎を背景にして撮ったもの、その上が白い帽子が越智さんで右側が川田さんという実際本当に行かれた証拠の写真でございます。こういう形で第1回目の訪問があったという事です。当時行かれた時はお金を持って行った訳ではなくて現地に実際行ってから何があったらいいのだろうという事で現地にて絵本を購入し、ノートを購入しその物品を持って現地の方に渡したという事で当時はお金をポンと持って行った訳でもなくて、その物を持って行ったのだという事を僕は越智さんから聞いてそれが頭にこびりついて西ロータリークラブのお金が全て物に代わって、西ロータリークラブの物としてお金がそのまま物に代わっていると思いついていましたが、会として支援をきちんと行っていたという事でございます。

これが2回目の訪問、写真だけなんですけれども岡田さん、茨木さん、石原さん、萱場さんという事で今年の5月に行かれた時の第2回会目の訪問の写真となります。この辺りから小林さんにも解説をお願いしたいと思うのですが、これが首都のウランバートルの中心街からそう遠くない、いわゆる観光客がよく行くザイセン、ザイセンでしたか？

《小林さん》

ザイサンです。

《伊東委員長》

早速間違わないように・・・(スライドの文字を直す)

《小林さん》

この間に一言申し上げてもよろしいでしょうか、小林志歩です。本当に長い事お世話になり続けてこうして改めて振り返りますと、本当に10年以上の亘り私達の小さな会にご支援を頂いた事、本当に心から感謝しております。もう少し先から挿みたくて言いたい事が満載なのですが、まず先程の初訪問の時の訪問団ですけれども、私達の本当に支援の会の立ち上げのタイミングでどういう支援を現地が求めているそれをどのように行うのかという話し合いをする場に一緒にご訪問して頂き、本当にヨチヨチ歩きの中からやろうとする会に継続的に支援して下さるスポンサーになって頂いたという事は私達にとって凄く心強い事でした。

写真の右下の方にあとの学校はハイルハンバグにあった学校なのですが、もうすでに閉校になっておりまして今はもう全くなり、チョロートソムというもう1つの村の学校、数10km離れた所の学校に行っております。皆さんがそこを支援しております。何が言いたいのかというと2000年頃にあった学校がなくなって、なくなっただけという事はその暮らしが改善をしていないのかそのままに近い状態になっているという事で、私がお願いをして折角行くのだからお2人方に何か現地でできるボランティアをして頂けたら

この旅がいいのではないかと提案して、尾藤さんには現地の人の足であるオートバイの調子を見て頂いてこの頃はロシア製のバイクだったのですが今は全部中国製の安いバイクに取って代わってあまり見る事がなくなりました。岡田さんは沢山の子供達の写真を撮って下さってプレゼントして頂きました。すみません長々と。

《伊東委員長》

という事で先程言うておりましたように、ハイルハン村というかその単位から学校がなくなってその1つ上のチョロートという所に行かなくてはならない状況が実はあるとの事です。それでザイサンの丘という観光名所の所から写した2007年と2017年のほぼ同じ位置からだと思って見て頂ければかなりウランバートルに関しては栄えてきているなというふうに見て頂いて分かるのではないかと思います。結構高層マンションみたいなのが建っている、奥の方にも建物がいっぱいあるという状態になっているようです。車も2007年の写真と比べるとかなり綺麗な車が多くなっているようです。2018年に撮影した2007年に行った当時の村の中心街の建物がもう朽ち果てている写真で、同じ時に撮った新しいセンターというのが位置がちょっと違い右側の方なのですけれども、これはハイルハンという所のものではないのですけれども見て頂ければ分かる通り、先程首都ウランバートルの方に関しては高層マンションが建ち景色が変わっている感じがあるのですけれども、これは同じ時期のものですけれど左の2018年の景色が2007年に写したものだと言っても別にそれはそのまま通用するように、実は2つを比較しても景色もなにも変わっていないつまりそのまま発展していない、発展するのがいいのかどうかは措いておいても状況としてはこういう形で首都とは随分乖離があるのだというのが現状です。

これはExcelの表なのですが、支援の会の方の報告という事で10年間のものを頂いたものです。奨学金として支援した方の人数とその年のトータルの支援のお金という事で記載がそれぞれありますけれども少ない時には10万円代、多い時には50万円以上の金額があったりするような感じですが、大体11年間平均すると金額が多い事もあるのですが30万円弱ぐらいのお金が支援されています。小林さんの方で作られたホームページを見るときちんと現地とお話しをしてその支援の仕方、やり方も難しいみたいですし、何をどの人にどういうふうにという事をきちんとお話しされて、支援で使っているお金もちゃんと決められているというような状況でした。

《小林さん》

ちょっと一言補足してもいいですか。本当に出来る限り経費をかけずに本当に必要としている子供だけに必要な物だけをあげたいという考えのもとやってきましたので人数はあのぐらになります。年ごとに増えていったものとかを一応見えるようにしている図なのですが、本当に支援がいらなくなるというのが理想で私達もこの会の活動をどこかで手を引いてそうなればと願いながらやっておりますけど依然として格差は大きくやっぱり学校に子供を行かせたいけど制服を買うのにもことを欠くという人は今でもおりますし支援を続けてほしい、そこからもっと増やしてほしいと言われるのです。

《伊東委員長》

という事でこの様な形で我々がこの会に対して支出したお金がきちんと管理をして頂いて、こういう形で実質の支援をされている子供達に行きわたっているという事が分かりますので最初の5点、活動のお金がきちんと使われているのか、というところでいくときちんと活用されていたのだなというふうに改めて思ったところでございます。

《小林さん》

そしてまだ使えきれていないと言いますか、たくさんまだ資金を託して頂いた資金を私達の方で待っておりますのでそれは同じような形で出来るだけ長く続けていきたいなと考えております。

《伊東委員長》

一応折角なので総括を僕なりにしてみたところ、ここはもう個人的に活動報告とか会報から読み取ったところなのですが、やはり10年間当クラブは関係が続けて国際奉仕というところは非常に趣旨として合うような活動が出来ていたのではないかと感じております。岡田さんが会長方針で少しだけ例年以上のパワーを国際奉仕活動に注ぐと号令があった事と川田さんの実行力があってので実現したのではないかと僕は改めて思いました。先程何度も振り返りますがこの5点が揃っているのかどうかというのがきちんと合致していたのではないかとというふうに思いました。僕として振り返ってみて非常に意義のある活動、国際奉仕の活動が当クラブはオリジナルな形で出来たというふうに感じております。少し変な書き方しておりますが、会の支援金額が370万円あって我々として60万円出資というか支援しておりますので2割弱ですが会を支えてきたことなので、個人的には委員長の意見でどうだという事ではなく、お金が終わったら大体終了するパターンが多いのですが一応そのお金として支援するのは今年予算も計上しておりますのでこれが支援としては当クラブとしては終わりなのではないのかなというふうに感じております。ただ過去の国際奉の例会を振り返ってみると継続してJICAの方や畜大の方、帯広市などのそういうところとは継続してずっと国際奉仕の例会で色々知見を与えてもらう講演を行って頂いておりますので、僕としてはお金では支援はしてはおりませんが何らかの形で継続的に小林さん経由で会との繋がりをうまく保つ事が出来ればそれは勿論今後の会長方針や委員長のやりたい事にもよりますが、何かうまく出来るのではないかと調べて改めて思った次第です。これが僕のまとめた10年間の総括で、会長と菊池委員長には確認させて頂きましたが、少し整理をしてホームページの方に活動の10年間の歴史という事で載せたいといきたいというふうに感じております。最後に小林さんから感想や何かおまとめ頂ければと思います。

《小林さん》

本当に感謝が何よりもお伝えしたい事なのですが、ここは今モンゴル留学生が増えてくる状況が想定されていると書かれておりますがそれよりもっと働きに来る人がこれから増えると思います。政府も労働省も受け入れに舵を切っておりますので今ベトナムの方が増えています、モンゴル人も少しずつ働きにきている方が出てきております。そういったモンゴルの方が働く色々なトラブルや意思の疎通が難しかったりする部分がありますので、その辺のサポートを私も何か個人的にうまく出来ないのか考えておまして、そのあたりも含めてこのご縁を今後も繋げていくように考えて頂ければ非常にうれしいなと思っております。それと2回目の今年の訪問について私が凄く楽しそうな写真ばかり送ってしまい遊んでいる写真ばかりでしたが、ちゃんと支援した学校に行って地区の寄付で学校のマットを購入して凄く喜んで活用し大事に使っている場面も見て参りましたのでその事を補足しておきます。本当にありがとうございました。

《伊東委員長》

最後に皆さんから小林さんに拍手をして頂けたらと思います。

《小林さん》

本当にありがとうございます。いつも毎回ここに来させて頂くと皆さんは本当にフレンドリーに接して下さいととても居心地が良かったです。本当に嬉しかったです、ありがとうございました。